
第94回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

XCIV Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

日時：2015年12月5日(土) 10:30 - 12:30

場所：関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア)1002 教室

担当者：岡見友里江、横山友里

「講読：La nueva gramática básica de la lengua española 第2章『語』 2b 語類・語種 第7節『形容詞』 pp.69-80」

* Fecha y hora: sábado, 5 de diciembre de 2015, de 10:30 a 12:30

* Lugar: Universidad Kwansei Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1002

* Encargadas: Yurie Okami, Yuri Yokoyama

* “Condiciones institucionales y situación en el aula para la enseñanza universitaria de español en Japón: Reconsideración del valor de la enseñanza del español”

活動報告「講読：La nueva gramática básica de la lengua española 第2章『語』 2b 語類・語種 第7節『形容詞』 pp.69-80」

今回の担当である『形容詞』は、比較的教科書の前半にでてくる文法項目であるが、その説明は、①名詞の後ろに置かれること、②名詞と性数一致することの2点が明記されるくらいで、あまり詳しい説明などはなされていない。しかしながら、その用法は多岐にわたり、形容詞の分類、名詞に対する位置、他の品詞との交替、特徴形容詞や比較・最上級の形態的特徴やその用法など、詳しくみていくとかなり説明に時間を要する文法項目であることがわかる。たとえば、名詞に対する相対的な位置などは、品質形容詞、分類形容詞の区別や、名詞修飾の制限用法・非制限用法を導入することでかなりわかりやすく整然と説明できるし、また、línea férrea vs. voluntad férrea, género teatral vs. gesto teatral のような品質形容詞と分類形容詞の交替の例なども簡単に説明が可能になる。しかしながら、現時点ではそれらの説明を授業時間内にすることは難しく、このような例は学生が個別に質問等にきた時に対応するのが現状である。

また、比較級の説明では、絶対最上級の取り扱い方について、文法書では muy や -ísimo と置き換えが可能であるとのことであったが(p.78)、それらを学生に教える際、muy + 形容詞が本当に最上級といえるのか、疑問が残る。

今後限られた授業時間内で、より効率的にひとつひとつの文法項目を教えられるよう、教師の側の十分な文法理解と授業の予習等が必要であると思う。